

履歴書・教育研究業績書記入要領

＊年号はすべて西暦で記入してください。

＊用紙が不足する場合は、欄を追加してご記入ください。

1 「履歴書」(様式1)について

(1)「年齢」は、2026(令和8)年4月1日現在の満年齢を記入してください。

(2)「現住所」は、住民登録に基づき、「○番○号」「○番地」まで記入してください。

(3)「学歴」欄について

- ① 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴(大学の別科及び専攻科を含む。)を有する場合、すべての学歴(授与された学位、称号を含む。)を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。
- ② 博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。
- ③ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称等はアルファベットと片仮名を併記し、国名を必ず記載してください。学位及び職歴についても同様に扱ってください。

(4)「学位」欄について

すべての学位について、取得日、学位区分、専攻分野の名称、取得学校名、学位記番号及び学位論文の題目を併記してください。

【例】 2000年3月 修士(○○学) ○○大学 △△ 「○○○に関する研究」

(5)「職歴」欄について

- ① すべての職歴(自営業、主婦、無職等を含む。)を記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

(6)「現在の職務の状況」欄について

- ① 記入日現在における職務の状況について記入してください。
- ② 「職名」については、大学等の教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入してください。職名がない場合は「―」を記入してください。
- ③ 「勤務状況」については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。

(7)「学会及び社会における活動等」欄について

- ① 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ② 学会、団体等の名称及び加入した年月を記入し、役員等を務めている者については、次のように記入してください。

【例】 1990年4月 ○○学会会員 (1990年4月から1995年3月まで評議員)

- ③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

(8)「資格・免許」欄について

- ① 自らの専攻や研究分野等に関連した資格等を中心に記入してください。また、造形・デザイン・建築分野・教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。
- ② 外国における資格等にあつては、正確に記入するとともに、その資格等の内容を日本語で併記してください。
- ③ 該当事項がない場合は「特になし。」と記入してください。なお、普通自動車の免許等についても取得している場合は記入してください。

(9)「賞罰」欄について

- ① 学会や出版社からの表彰や職務上の表彰、ハラスメントなどの懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。
- ② 該当事項がない場合は「特になし。」と記入してください。

2 「教育研究業績書」(様式2)について**(1)「研究分野」及び「研究内容のキーワード」欄について**

- ① 「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。
- ② 「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。

(2)「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」欄について

- ① 「事項」の項には、各区分に該当する担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。
- ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
- ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例**ア 教育方法の実践例**

- 優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開 等

イ 作成した教科書、教材

- 作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要(後の「著書、学術論文」との重複可。その際には、「再掲」と表示)

ウ 教育上の能力に関する大学等の評価

- 各大学における自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実(その事由と評価内容)
- 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- 学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
- 学外の評価機関等が行った評価
- 上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価(客観性を持ったものについて記載)等

エ 実務の経験を有する者についての特記事項

- 大学から受け入れた実習生等に対する指導歴(教育実習・福祉実習・企業実習等)
- 企業内教育、大学公開講座、シンポジウム、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記載してください。

オ その他

- 大学教育に関する団体等における活動

- 教育実績に対する表彰
- 国家試験問題の作成等
- ⑤「職務上の実績に関する事項」の例
 - ア 資格、免許
 - 資格や免許について、担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われるものについて記載してください。
 - イ 特許等
 - 本人の担当する教育内容等に関連した事項について記載してください。
 - ウ 実務の経験を有する者についての特記事項
(「職歴」欄に記入した事項を中心に、専門分野に関する実績を記載してください。)
 - 大学との共同研究
 - 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
 - 各種審議会・行政委員会等の委員
 - 行政機関における調査官等
 - 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
 - 調査研究、留学、海外事情調査等
 - 上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等
 - エ その他
 - 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
 - 論文の引用実績等

(3)「研究業績等に関する事項」欄について

- ① 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものは記入できません。
- ② 「著書、学術論文等の名称」の項について
 - 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(作品)」、「(作品展等)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。
 - 著書については、書名を記入してください。
 - 学術論文については、国際学術雑誌、学会機関誌、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。
 - 作品、作品展等については、展覧会名、作品名等を記入してください。
 - その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。
 - 査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
- ③ 「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。
- ④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。
- ⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について
 - 著書については、発行所を記入してください。
 - 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。
 - 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。
- ⑥ 「概要」の項について
 - 当該著書等の概要を200字程度で記入してください。
 - 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名(下線を付すこと。)を含め著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入してください。なお、外国語で著されている場合、その外国語で記入するとともに()として訳文を記入してください。